A 33

'egalitarian couple'の研究 —生活時間における均等性— (Part 2)

○神戸学院女子短大家政　水島かな江　比治山女子短大家政　山田知子
鳴門教育大　星野　久

(目的) ワーキングカップルの普及とともに，性役割における女子の負担率や夫婦間のリーダーシップにも，均等化への変化が表れてきたのであるが，これを以て直ちに均等型カップルの誕生と見做すには，幾多の問題点が残されままになっている．そこで本論では，ワーキングカップルの生活時間構造を対象として，(実質的) 均等性と家族構成や夫婦属性等の (形式的) 均等因子との相関を分析して，均等型カップルに適切妥当な指標を作成し，かつ，今後の調査研究の基礎的資料を提供しようと試みたものである．

(方法) 近畿圏の地方公務員 (ワーキングカップル) の調査資料を分析対象とした点は，(Part 1) と同様である．調査項目中，平日及び休日の生活時間記録を中心に，特に起床から出勤までの時間帯と通勤時間 (通勤距離) との関係等から析出した均等性が，朝の家事 (朝食) 役割やその他の諸属性とどのように相関するか等を分析した．

(結果) (1)生活時間の均等性には，同時刻に起きて同時刻に出勤する (形式的) 一致と，勤務条件や役割配分の都合で部分的ズレが観られても，実質的一致と見做されるケースもあり，分類にかなり困難を伴う点を指摘しておきたい．(2)ここでは形式的均等を紹介するが，年齢，学歴，収入等の均等性と相関しないばかりでなく，通勤時間や勤務等の拘束時間とも直接的関連性は観られなかった．(3)すなわち，起床時間と関わり無く，伝統的性役割が維持される割合は圧倒的に高い．(夫①～⑤妻の5段階尺度で 4.5) (4)要するに起床時間の一致度は，博報堂調査と異なり必ずしも均等カップルの指標として妥当かどうか，更に検討の必要があろう．(ただし，均等因子が増えれば，これも均等型の一つである.)